

関西国際大学大学院

2026 年度履修証明プログラム



特別支援教育コーディネーター養成コース

募集要項



履修証明制度とは

履修証明制度とは、学校教育法第105条及び学校教育法施行規則第164条の規定に基づき、大学が教育や研究に加えてより積極的な社会貢献として、主として社会人向けに体系的な学習プログラムを開設し、その修了者に対して、法に基づく履修証明書を交付するものです。

履修証明プログラムとは

本認定制度は、大学・大学院・短期大学・高等専門学校におけるプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的として、大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを「職業実践力育成プログラム」(BP)として文部科学大臣が認定するものです。

本学の履修証明プログラムを受講するメリット

1. 特別支援教育と発達障がい支援の実際について、系統的に学ぶことができます。
2. 修了時に、関西国際大学大学院が認定する「特別支援教育コーディネーター修了証明書」(履修証明書)が交付されます。
3. 本プログラムを修了した方が、本学の大学院(人間行動学研究科 臨床教育学専攻)に進学した場合は、受講した大学院授業の単位が「入学前習得済み単位」として認定されます。
4. 「みんなの特別支援教育」「就学前の特別支援教育」に全回出席した方で、特別支援教育士(S.E.N.S)の資格を持つ方には、一般財団法人特別支援教育士資格認定協会が認定する資格更新ポイントが付与されます。

I. 履修手続き等

コース名	特別支援教育コーディネーター養成コース
開設期間／キャンパス	2026年4月～2027年3月(1年間) 関西国際大学尼崎キャンパス
趣旨・内容	本課程は、「地域・学校園における特別支援教育の体制づくり及び専門的指導」のための政策・計画立案能力、組織化、及び地域課題解決への具体的対応力を身に付けることにより、地域・学校園における特別支援教育をコーディネートできる人材の育成や、その能力の向上を図ることを目的とします。
募集定員	20名程度
対象者	特別支援教育や発達障がいに关心のあるすべての方
出願資格	次の(1)～(5)のいずれかに該当する者とします。 (1)大学を卒業した者 (2)外国において、学校教育における16年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者 (3)文部科学大臣の指定した者 (4)本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者 (5)その他本大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

コース修了 認定要件	当コースを構成する講義から 120 時間以上履修し、認定試験に合格すること。 (ただし、各講義の開講日数の 3 分の 2 以上の出席を要する)												
修了時に 付与される 資格等	<ul style="list-style-type: none"> ・関西国際大学大学院が認定する「特別支援教育コーディネーター修了証明書」(履修証明書)を交付します。 ・希望者には、オープンバッジ(デジタル証明書)を発行します。 ・「みんなの特別支援教育」「就学前の特別支援教育」において、全回出席した方で、一般財団法人特別支援教育士資格認定協会の「特別支援教育士(S.E.N.S.)」を持つ方には、資格更新のためのポイントを付与します。 												
出願書類	<ol style="list-style-type: none"> 履修証明プログラム受講申請書(本学所定のもの) <u>写真 2枚</u> 縁なし・光沢仕上げのカラー写真、正面・上半身・脱帽、3か月以内撮影のもの、タテ 4cm × ヨコ 3cm、裏面に鉛筆で氏名を記入し、1枚は受講申請書に貼付、もう1枚はそのまま提出してください。 												
出願手続	<ol style="list-style-type: none"> 出願方法 <郵送受付のみ> 出願期間(厳守) 2026年1月26日(月)～2026年3月6日(金) 当日消印有効 提出先(送付先住所) 〒661-0976 兵庫県尼崎市潮江1丁目3番23号 関西国際大学尼崎キャンパス 履修証明プログラム担当 TEL(06)6496-4357 E-Mail:gakuji@kuins.ac.jp 出願料および検定料は不要です。 												
審査と許可	<ol style="list-style-type: none"> 審査は書類審査とし、必要に応じて面接あるいは履修資格の確認を行う場合があります。 受講を許可された方に受講許可書を発行します。ただし、以下の場合には許可を取り消す場合があります。 <ul style="list-style-type: none"> (1)各種規程に抵触することが判明した場合 (2)所定の期日までに受講料の納付が確認できなかった場合 <p><審査結果発表> 審査結果は3月23日(月)までに、メールにて通知します。また、受講許可書は4月1日に発送予定です。(本人宛郵送) ※電話・FAX・メール・大学窓口への直接の問い合わせはご遠慮ください。</p>												
出席・欠席	<ol style="list-style-type: none"> 各科目の開講日数の内、それぞれ 3 分の 2 以上の出席を要します。 夜間講座「みんなの特別支援教育」「就学前の特別支援教育」については、クールごとに、S.E.N.S.(※)保有者に対し、次の資格更新ポイントを付与します。(全回出席の場合に限る) <p><S.E.N.S の資格更新ポイント付与数></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>科 目 名 称</th> <th>春クール(6-7月)</th> <th>秋クール(10-12月)</th> <th>冬クール(1-2月)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>みんなの特別支援教育</td> <td>5回全出席で2P</td> <td>5回全出席で2P</td> <td>5回全出席で2P</td> </tr> <tr> <td>就学前の特別支援教育</td> <td>4回全出席で2P</td> <td>4回全出席で2P</td> <td>4回全出席で2P</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 特別支援教育士[S.E.N.S.]は一般財団法人特別支援教育士資格認定協会による認定資格です。 詳細は協会 HP にてご確認ください。 【協会ホームページ】http://www.sens.or.jp/about-sens-index/about-sens/</p>	科 目 名 称	春クール(6-7月)	秋クール(10-12月)	冬クール(1-2月)	みんなの特別支援教育	5回全出席で2P	5回全出席で2P	5回全出席で2P	就学前の特別支援教育	4回全出席で2P	4回全出席で2P	4回全出席で2P
科 目 名 称	春クール(6-7月)	秋クール(10-12月)	冬クール(1-2月)										
みんなの特別支援教育	5回全出席で2P	5回全出席で2P	5回全出席で2P										
就学前の特別支援教育	4回全出席で2P	4回全出席で2P	4回全出席で2P										

II. 開設科目

No.	区分	必修/選択	設定	科 目 名 称	科目担当者	時間数
RST-001	夜間講座	必修	春・秋・冬各 5 回	みんなの特別支援教育	関西国際大学大学院 非常勤講師 中尾繁樹	22.5h
RST-002		必修	春・秋・冬各 4 回	就学前の特別支援教育	関西国際大学教育学部 非常勤講師 松本恵美子	18h
RST-003	特トレ	必修	年 6 回 土曜・ 平日夜間	特別支援教育コーディネータートレーニング	複数専門家による輪講	15h
RST-004	大学院 ※	必修	春 水・6 限	特別支援教育特論	関西国際大学大学院 非常勤講師 花熊曉	30h
RST-005		必修	春 火・7 限	発達障害教育特別演習 I	関西国際大学大学院 非常勤講師 中尾繁樹	30h
RST-006		必修	秋 木・6 限	特別支援教育実践研究	関西国際大学大学院 非常勤講師 中尾繁樹	30h
RST-007		選択	秋 水・6 限	発達障害教育特論	関西国際大学大学院 非常勤講師 花熊曉	30h
RST-008		選択	春 火・6 限	学級経営学特論	関西国際大学大学院 非常勤講師 中尾繁樹	30h

開講スケジュールは別途予定表をご確認ください。※大学院 [6限] 18:30~20:00 [7限] 20:10~21:40

※授業は、キャンパスでの対面授業と遠隔授業(オンライン)との併用で行います。

遠隔授業(オンライン)は、主に Zoom を利用して行います。

III. 費用(受講料) 次の3パターンから選択してください。

必 修 (145.5 時間)	必修+選択 1 科目 (175.5 時間)	必修+選択 2 科目 (205.5 時間)	納付方法・時期
120,000 円	135,000 円	150,000 円	春と秋の二期に分けて半額ずつ納付してください。 ※大学から 4 月と 10 月に書類を本人宛に送付 →所定の期日までに納付してください。

【注意】 1. 「検定料」「登録料」は、本プログラムにおいてはこれを徴収いたしません。

2. 本学大学院に在籍中の大学院生は受講料を免除します。

3. 学期途中から選択科目を登録することはできません。

4. 納入された「受講料」は原則、一切返却できません。

IV. その他

1. 本プログラムを修了し、本学大学院へ進学した場合は、入学前習得済み単位として単位を認定します。
2. 履修証明プログラム履修生への「通学証明書」「学割証」「成績証明書」等は発行いたしません。

V. 教育訓練給付金について

本講座は厚生労働省の教育訓練給付制度の『専門実践教育訓練』の指定を受けております。

専門実践教育訓練の教育訓練給付金は、一定の条件を満たす雇用保険の一般被保険者等(在職者)又は一般被保険者等であった方(離職者)が、厚生労働大臣が指定する専門実践教育訓練を受講している間、また、修了した場合、その受講のために本人が支払った教育訓練経費の50%(年間上限40万円)がハローワークから支給される制度です。また、訓練修了後1年以内に資格を取得し、雇用保険の被保険者として雇用された場合は、教育訓練経費の70%(既に支給を受けた50%の給付の年間合計額と教育訓練経費の70%に相当する額(年間上限56万円)の差額)が支給されます。令和6年10月以降に開講する講座の場合、上記の追加支給の要件を満たしたうえで、訓練修了後の賃金が受講開始前と比較して5%以上上昇した場合は、教育訓練経費の80%(既に支給を受けた50%と70%の給付の年間合計額と教育訓練経費の80%に相当する額(年間上限64万円)の差額)が支給されます。詳しくは下記URLの案内をご確認ください。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/jinzaikaihatsu/kyouiku.html



『専門実践教育訓練』の受講開始前手続きについて

受講する2週間前までにハローワークでの手続きが必要です。

専門実践教育訓練給付金を受給するには、受講開始日の2週間前までにお住まいの地域を管轄するハローワークで事前の手続きが必要です。教育訓練給付金を希望される場合は、ハローワークで受給資格の有無や支給要件の確認をしてください。下記リンク先のリーフレット(PDFファイル)を参考に手続きをしてください。

<https://www.mhlw.go.jp/content/001529622.pdf>



① 訓練前キャリアコンサルティング

訓練対応キャリアコンサルタントによる訓練前キャリアコンサルティングで就業の目標、職業能力の開発・向上に関する事項を記載したジョブ・カードの交付を受けることが必要です。

② 受給資格確認

ハローワークなどで配布する『教育訓練給付金及び教育訓練支援給付金受給資格確認票』とジョブ・カードをお住まいを管轄するハローワークへ提出します。この手続きは、受講開始日(2026年4月1日予定)の2週間前までに行う必要があります。提出書類の詳細は、下記リンク先のリーフレットのP8の案内をご確認ください。

<https://www.mhlw.go.jp/content/001529622.pdf>



受講中・受講修了後の手続きについて

① 支給申請

受講から6ヶ月間(2026年9月30日)が終わった翌日から1ヶ月以内と、受講修了日(2027年3月25日予定)の翌日から1ヶ月以内にハローワークに支給申請の書類を提出し、申請手続きを行います。

なお、受講証明書または専門実践教育訓練修了書と領収書は本学で発行いたしますので、履修証明プログラム担当までお問い合わせください。

○専門実践教育訓練給付金について

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/jinzaikaihatsu/kyouiku.html



○講座一覧はこちらから

<https://www.kyufu.mhlw.go.jp/kensaku/>



○教育訓練給付に係る相談・受給について(お住まいを管轄するハローワーク)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/hellowork.html



2026年度関西国際大学大学院 履修証明プログラム「特別支援教育コーディネーター養成コース」予定表

春学期(4月~7月)、夏学期(8月~9月)

夜間講座	通年	必修(講座①)	みんなの特別支援教育	中尾繁樹	平日夜間19:30-21:00 (春・秋・冬 各5回)
		必修(講座②)	就学前の特別支援教育	松本恵美子	平日夜間19:00-20:30 (春・秋・冬 各4回)
特トレ	通年	必修(特トレ)	特別支援教育コーディネートトレーニング		土曜午前・平日夜間(年6回)
		必修①	発達障害教育特別演習Ⅰ	中尾繁樹	火曜7限(20:10~21:40)
		必修②	特別支援教育特論	花熊 晴	水曜6限(18:30~20:00)
大学院	春学期	選択①	学級経営学特論	中尾繁樹	火曜6限(18:30~20:00)

※夜間講座・秋冬学期の日程は決まり次第お知らせします。

※講義日程、特トレの日程は予定です。変更になる場合があります。その際は別途ご案内します。

初回授業						
2026年4月						
月	火	水	木	金	土	
		1 受講資料 発送予定日	2	3	4	
6	7	8 必修②	9	10	11	
13	14 選択① 必修①	15 必修②	16	17	18	
20	21 選択① 必修①	22 必修②	23	24	25	
27	28 選択① 必修①	29 昭和の日	30			

7月						
月	火	水	木	金	土	
		1 必修②	2	3	4	
6	7 選択① 必修①	8 必修②	9	10	11	
13	14 選択① 必修①	15 必修②	16	17	18	
20	21 海の日 平常授業	22 必修②	23	24	25	
27	28 選択① 必修①	29 必修②	30			

5月						
月	火	水	木	金	土	
				1	2	
4 みどりの日	5 こどもの日	6 振替休日	7	8	9	
11 選択① 必修①	12 必修②	13 必修②	14	15	16 特トレ① 9:00-12:15	
18 選択① 必修①	19 必修②	20	21	22	23	
25 選択① 必修①	26 必修②	27 必修②	28	29	30	

8月						
月	火	水	木	金	土	
						1
3	4	5	6	7 夏期閉門期間	8	
10 夏期山の日	11 山の日	12 閉門期間	13 期間	14 間	15	
17	18	19	20	21	22	
24	25	26	27	28 特トレ③ 座談会 10:00-12:00	29	
31						

9月						
月	火	水	木	金	土	
	1	2	3	4	5	
7 敬老の日	8 国民の休日	9 秋分の日	10 秋分の日	11	12	
14 秋分の日	15 秋分の日	16 秋分の日	17 秋分の日	18	19	
21 秋分の日	22 秋分の日	23 秋分の日	24	25	26	
28	29	30				

授業概要(シラバス)

※内容が変更となる場合があります

RST-001(必修)

授業概要

1. 科目名	みんなの特別支援教育		
2. 時間数	22. 5時間	時期	夏・秋・冬 各5回
3. 必修・選択区分	必修		
4. 授業形態	講義		
5. 参考書	なし(講義毎にプリント配布)		
6. 担当者	人間行動学研究科 非常勤講師 中尾繁樹		
7. 概要	<p>一人一人学び方の違う子どもたちについて広く、深く理解することで、すべての教育の中で適切な指導方法や具体的な指導内容が実践される。</p> <p>それによって一次的な障がいの改善だけでなく、保育や教育現場で見られるパニックや自己否定感等の二次的な問題を少しでも予防、軽減することができるようと考える。教員及び保育士等、子ども達にかかわる人々の専門性を高めるため、発達障がいのある子どもの特徴や見立ておよび具体的な指導方法について学ぶ。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達障がいに関する基礎知識を修得する。 2. アセスメントについて理解する。 3. ケースに応じた具体的な支援方法や指導案が導き出せるようになる。 		
9. 授業展開及び授業内容	<p>【夏期】テーマ: 子どもの課題を考える</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 アタッチメント形成と課題について考える 2 不登校と指導課題について考える 3 保護者支援を聞かげる 4 子どものからだの課題について考える 5 事例検討 <p>【秋期】テーマ: 通常学級における特別支援教育について考える</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 通常の学級におけるアセスメントについて考える 2 通常の学級における特別支援教育について考える 3 通常の学級における配慮とは何かを考える 4 通常の学級における自立活動について考える 5 事例検討 <p>【冬期】テーマ: 子どもにかかわる大人としてすることについて考える</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもをみることについて考える 2 今の保育・幼稚園・学校教育の現状について考える 3 子どもにかかわるおとなとしてすることについて考える 4 「今大切にすべきものは」もついて考える 5 事例検討 		

RST-002(必修)

授業概要

1. 科目名	就学前の特別支援教育		
2. 時間数	18時間	時期	夏・秋・冬 各 4回
3. 必修・選択区分	必修		
4 授業形態	講義		
5. 参考書	なし(講義毎にプリント配布)		
6. 担当者	教育学部 非常勤講師 松本恵美子		
7. 概要	<p>発達障害児が困っていることに、私たちは本当に理解をして対応できているのだろうかと思うことがあります。私たちが彼らのことを本当に理解ができていれば、彼らに“わかる”伝えができるはずなのに、お互いに伝えられず・理解できずの負のトルネードに巻き込まれていると感じることが多いのはどうしてでしょうか？</p> <p>子どもの行動を正しく理解できれば、分かる伝えができるはずです。</p> <p>この行動の理解の方法の一つに応用行動分析があります。</p> <p>ペアレントトレーニングに用いられる基本的な方法もあります。</p> <p>応用行動分析について、簡単に見てゆきましょう。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達障害児の乳幼児期のスクリーニングと発達障害乳幼児に特有のこころとからだの発達に関する基礎知識を修得する。 2. 発達障害児が成長の課程においてつまずくポイントと様々な方法による支援方法を理解する。 3. 発達障害児の保護者、家族に対する支援ができるようになる 4. ケースに応じた具体的な支援方法や指導案が導き出せるようになる。 		
9. 授業展開及び授業内容	<p>【夏期】(各回 90 分 19:00-20:30)</p> <p>発達障害児の困り感への理解と対応</p> <p>第1回 応用行動分析とは</p> <p>第2回 応用行動分析の基本</p> <p>第3回 子どもへの接し方</p> <p>第4回 生活支援のための対応</p> <p>【秋期】(各回 90 分 19:00-20:30)</p> <p>気になる子どものどこを気にしていますか？</p> <p>第1回 胎生期から0歳前半を見る</p> <p>第2回 0歳後半から2歳の間を見る</p> <p>第3回 2歳から3歳の間を見る</p> <p>第4回 1～3歳、3～4歳の間を見る</p> <p>【冬期】(各回 90 分 19:00-20:30)</p> <p>モンテッソーリ教育の日常での活かし方</p> <p>第1回 身体を上手に使う</p> <p>第2回 手を上手に使う①</p> <p>第3回 手を上手に使う②</p> <p>第4回 分別する</p>		

RST-003(必修)

授業概要

1. 科目名	特別支援教育コーディネータートレーニング		
2. 時間数	15時間	時期	年6回 土曜日 (座談会は平日夜間の可能性あり)
3. 必修・選択区分	必修		
4. 授業形態	講義および演習(事例検討ワーク、双方向討論、座談会等)		
5. 参考書	なし(講義毎にプリント配布)		
6. 担当者	実務家教員および外部委員(教育委員会等、保育園長等)		
7. 概要	<p>当講義では特別支援教育コーディネーターに欠かすことのできない「リスクマネジメント」、「相談援助」について学修する。また、社会的な問題である「子供の貧困」、「ハラスメント」についても学修し、どのような支援が子どもに必要か等のニーズ把握を行い、客観的なアセスメント(生活課題の分析・実態把握)を行うための「リスクマネジメント」、「相談援助」について基礎から学びなおす。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none">コーディネーターに必要な、リスクマネジメントや相談援助に関する基礎知識を修得する。関係機関と連携するための実践ノウハウを修得し、当講義において設定する行政および施設関係者との座談会等を通じて、地域ネットワークを構築する。2のネットワークを生かして、地域における中核的コーディネーターとして支援方法が提案できるようになる。		
9. 授業展開及び授業内容	<ol style="list-style-type: none">ハラスメント①(90分)ハラスメント②(90分)子どもの貧困(90分)リスクマネジメント(90分)外部機関との連携①(座談会)(120分)相談援助①(90分)相談援助②(90分)児童虐待と地域連携(120分)外部機関との連携②(座談会)(120分)		
<p>【注意事項】</p> <p>※講義の開講順と担当教員は変更になる場合があります。</p> <p>※講義は土曜日の午前中に開講します。</p> <p>外部機関との連携(座談会)は、平日の夜間に開催いたします。</p> <p>※変更が生じた場合は、速やかにお知らせします。</p>			

授業概要

1.科目名	特別支援教育特論		
2.時間数	30 時間	時期	春学期 水曜
3.必修・選択区分	必修		
4.授業形態	講義		
5.参考書	必要に応じて、授業で文献を紹介します。		
6.担当者	人間行動学研究科 非常勤講師 花熊曉		
7.概要	<p>我が国ではいま、誰もが相互に人格と個性を尊重しあい、人々の多様なあり方を相互に認め合える全員参加型の社会である「共生社会」の形成が国家的な目標とされています。そうした社会を形成していくためには、学校教育においてインクルーシブ教育システムを構築することが重要であり、そのためには特別支援教育を着実に進めていく必要があります。</p> <p>本授業では、障がいの捉え方の歴史的変遷と現在の障がいの捉え方の理解をもとに、特別支援教育が求められた背景、特別支援教育のシステムと支援の基本(基礎的環境整備と合理的配慮)、特別支援教育を支える法制度等の事項について学びます。</p> <p>また、それらをもとに、LD、ADHD、ASD、DCD 等の発達障害の定義と状態像について、医学と教育の両側面から概観し、これらの子どもたち(人たち)に必要な支援のシステムと内容、支援者に求められる専門性と倫理について学びます。</p>		
8.学習目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 障がいの捉え方の歴史的変遷と現在の障がいの捉え方 (ICF,2001)を述べることができる。 (2) 特別支援教育が求められた背景と特別支援教育の最新の動向について説明できる。 (3) インクルーシブ教育システムの理念と基礎的環境整備、合理的配慮について説明できる。 (4) 学校・園における特別支援教育の体制づくりと支援者の役割、支援者に必要な専門性と倫理について説明できる。 (5) LD、ADHD、ASD、DCD 等の発達障害の定義と状態像と支援の基本を述べることができる。 (6) 長期的な観点に立った支援と移行支援の必要性について説明できる。 (7) 特別支援教育と発達障害支援の今後の課題を述べることができる。 		
9.授業展開 及び 授業内容/ アサイン メント (宿題等)	<ol style="list-style-type: none"> 1.◇障がい支援の動向 <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ①「障害」の捉え方の歴史的変遷 ②いま、障がい支援に求められること 2.◇学校教育の今日的課題 <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ①特別支援教育の理念 ②特別支援教育が求められる背景 ③特別支援教育と通常の教育の関連性 3.◇「特殊教育」から「特別支援教育」へ <ul style="list-style-type: none"> ・講義 特別支援教育の歴史 4.◇特別支援教育の理念とシステム <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ①特別支援教育の理念と意義 ②特別支援教育のシステムの全体像 5.◇特別支援教育の展開 その1 <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ①学校における特別な教育ニーズの実態把握 ②個に応じた支援を必要とする子どものアセスメント 6.◇特別支援教育の展開 その2 <ul style="list-style-type: none"> ・講義 学校・園における支援体制 7.◇特別支援教育の展開 その3 <ul style="list-style-type: none"> ・講義 個別の指導計画の作成 8.◇特別支援教育の展開 その4 <ul style="list-style-type: none"> ・講義 個別の教育支援計画の作成 ・討論 個別の教育支援計画がなぜ必要なのか 9.◇特別支援教育の展開 その5 <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ①関係機関(医療、福祉、労働)との連携 ②移行支援 10.◇発達障害の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ①発達障害とは ②発達障害の歴史 ③発達障害を巡る動向 11.◇LD(学習障害)概論 <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ①LD の定義 ②LD の状態像と支援の基本 12.◇ADHD(注意欠如多動症)概論 <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ①ADHD の定義と状態像 ②ADHD の支援の基本 13.◇ASD(自閉スペクトラム症)概論 <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ①ASD の定義と状態像 ②ASD の支援の基本 14.◇DCD(発達性協調運動症)及び、発達障害の周辺にいる子どもたち <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ①DCD の理解と支援 ②発達障害の周辺にいる子どもたちの理解と支援 15.◇まとめ:特別支援教育と発達障害支援の今後の課題 <ul style="list-style-type: none"> ①支援対象の拡大(ギフテッド、2E 等) ②支援システム面の課題 		
10.成績評価	<ol style="list-style-type: none"> ①授業内の討論 30% ②内容理解確認のための小テスト 40% ③最終レポート 30% 		
11.コメント	特別支援教育の理念、システム、具体的な内容を理解する上での基礎となる授業内容なので、特別支援教育に関する基本概念をしっかりと把握してください。		

RST-005(必修)

授業概要

1.科目名	発達障害教育特別演習Ⅰ																																															
2.時間数	30 時間	時期	春学期 火曜																																													
3.必修・選択区分	必修																																															
4.授業形態	講義・演習																																															
5.参考書																																																
6.担当者	人間行動学研究科 非常勤講師 中尾繁樹																																															
7.概要	<p>【目的】具体的なテーマに沿った実践研究を行うことにより、発達障害に関する分野での実践・研究に必要となる現場体験及び文献講読による実践分析力と研究方法の習得をめざす。</p> <p>【概要】発達障害児における現場での課題と心理・教育学的に検討するための具体的方法論を知り、また最新の研究動向を知る中で、現在の発達障害教育の教育課題に対するエビデンスの収集と問題のたて方と研究方法を学ぶ。</p>																																															
8.学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 発達障害教育学の基本概念と研究方法論を知る。 ② 研究課題に沿った、エビデンスと実践での情報収集及び分析を行う。 ③ 修士論文に向けた研究課題設定を行うことができる。 																																															
9.授業展開 及び 授業内容/ アサイン メント (宿題等)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">1. オリエンテーション・授業の進め方</td> <td colspan="2">★次回までに、自身の研究主題にあった発達障害に関する海外文献を3つ検索し、日本の論文と比較するための準備。</td> </tr> <tr> <td>2. 実践体験と分析(1)・発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表①</td> <td colspan="2">★実践体験及び調査のためのフィールドを確保し、課題の分析を行う。</td> </tr> <tr> <td>3. 実践体験と分析(2)・発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表②</td> <td colspan="2">★実践体験及び調査のためのフィールドを確保し、課題の分析を行う。</td> </tr> <tr> <td>4. 実践体験と分析(3)・特別支援教育現場での実践報告と分析 ○海外論文発表③</td> <td colspan="2">★実践体験及び調査のためのフィールドを確保し、課題の分析を行う。</td> </tr> <tr> <td>5. 実践体験と分析(4)・特別支援教育現場での実践 ○海外論文発表④</td> <td colspan="2">★実践体験及び調査結果等の報告のまとめを次回までに行う。</td> </tr> <tr> <td>6. 実践体験と分析(5)・発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表⑤</td> <td colspan="2">★実践体験及び調査結果等の報告のまとめを次回までに行う</td> </tr> <tr> <td>7. 実践体験と分析(6)・発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表⑥</td> <td colspan="2">★実践体験及び調査結果等の中間報告のまとめを次回までにPPTで準備する</td> </tr> <tr> <td>8. 実践体験と分析(7)・中間報告 ○中間報告会と議論、討論、課題と問題解決</td> <td colspan="2">★実践体験及び調査結果等の中間報告の課題を受けて準備検討する。</td> </tr> <tr> <td>9. 実践体験と分析(8)・特別支援教育現場での実践報告 ○海外論文発表⑦</td> <td colspan="2">★実践体験及び調査結果等の中間報告の課題を受けて準備検討する。</td> </tr> <tr> <td>10. 実践体験と分析(9)・特別支援教育現場での実践報告 ○海外論文発表⑧</td> <td colspan="2">★実践体験及び調査結果等の中間報告の課題を受けて準備検討する。</td> </tr> <tr> <td>11. 実践体験と分析(10)・発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表⑨</td> <td colspan="2">★実践体験及び調査結果等の中間報告の課題を受けて準備検討する。</td> </tr> <tr> <td>12. 実践体験と分析(11)・発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表⑩</td> <td colspan="2">★実践体験及び調査結果等の最終報告に向けて準備検討する。</td> </tr> <tr> <td>13. 個人の発表と討議(12)・分析結果のまとめ</td> <td colspan="2">★実践体験及び調査結果等の最終報告に向けて準備検討する。</td> </tr> <tr> <td>14. 個人の発表と討議(13)・分析結果のまとめ</td> <td colspan="2">★実践体験及び調査結果等の最終報告に向けて準備検討する。</td> </tr> <tr> <td>15. 個人の発表と討議(14)・最終報告</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>			1. オリエンテーション・授業の進め方	★次回までに、自身の研究主題にあった発達障害に関する海外文献を3つ検索し、日本の論文と比較するための準備。		2. 実践体験と分析(1)・発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表①	★実践体験及び調査のためのフィールドを確保し、課題の分析を行う。		3. 実践体験と分析(2)・発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表②	★実践体験及び調査のためのフィールドを確保し、課題の分析を行う。		4. 実践体験と分析(3)・特別支援教育現場での実践報告と分析 ○海外論文発表③	★実践体験及び調査のためのフィールドを確保し、課題の分析を行う。		5. 実践体験と分析(4)・特別支援教育現場での実践 ○海外論文発表④	★実践体験及び調査結果等の報告のまとめを次回までに行う。		6. 実践体験と分析(5)・発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表⑤	★実践体験及び調査結果等の報告のまとめを次回までに行う		7. 実践体験と分析(6)・発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表⑥	★実践体験及び調査結果等の中間報告のまとめを次回までにPPTで準備する		8. 実践体験と分析(7)・中間報告 ○中間報告会と議論、討論、課題と問題解決	★実践体験及び調査結果等の中間報告の課題を受けて準備検討する。		9. 実践体験と分析(8)・特別支援教育現場での実践報告 ○海外論文発表⑦	★実践体験及び調査結果等の中間報告の課題を受けて準備検討する。		10. 実践体験と分析(9)・特別支援教育現場での実践報告 ○海外論文発表⑧	★実践体験及び調査結果等の中間報告の課題を受けて準備検討する。		11. 実践体験と分析(10)・発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表⑨	★実践体験及び調査結果等の中間報告の課題を受けて準備検討する。		12. 実践体験と分析(11)・発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表⑩	★実践体験及び調査結果等の最終報告に向けて準備検討する。		13. 個人の発表と討議(12)・分析結果のまとめ	★実践体験及び調査結果等の最終報告に向けて準備検討する。		14. 個人の発表と討議(13)・分析結果のまとめ	★実践体験及び調査結果等の最終報告に向けて準備検討する。		15. 個人の発表と討議(14)・最終報告		
1. オリエンテーション・授業の進め方	★次回までに、自身の研究主題にあった発達障害に関する海外文献を3つ検索し、日本の論文と比較するための準備。																																															
2. 実践体験と分析(1)・発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表①	★実践体験及び調査のためのフィールドを確保し、課題の分析を行う。																																															
3. 実践体験と分析(2)・発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表②	★実践体験及び調査のためのフィールドを確保し、課題の分析を行う。																																															
4. 実践体験と分析(3)・特別支援教育現場での実践報告と分析 ○海外論文発表③	★実践体験及び調査のためのフィールドを確保し、課題の分析を行う。																																															
5. 実践体験と分析(4)・特別支援教育現場での実践 ○海外論文発表④	★実践体験及び調査結果等の報告のまとめを次回までに行う。																																															
6. 実践体験と分析(5)・発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表⑤	★実践体験及び調査結果等の報告のまとめを次回までに行う																																															
7. 実践体験と分析(6)・発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表⑥	★実践体験及び調査結果等の中間報告のまとめを次回までにPPTで準備する																																															
8. 実践体験と分析(7)・中間報告 ○中間報告会と議論、討論、課題と問題解決	★実践体験及び調査結果等の中間報告の課題を受けて準備検討する。																																															
9. 実践体験と分析(8)・特別支援教育現場での実践報告 ○海外論文発表⑦	★実践体験及び調査結果等の中間報告の課題を受けて準備検討する。																																															
10. 実践体験と分析(9)・特別支援教育現場での実践報告 ○海外論文発表⑧	★実践体験及び調査結果等の中間報告の課題を受けて準備検討する。																																															
11. 実践体験と分析(10)・発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表⑨	★実践体験及び調査結果等の中間報告の課題を受けて準備検討する。																																															
12. 実践体験と分析(11)・発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表⑩	★実践体験及び調査結果等の最終報告に向けて準備検討する。																																															
13. 個人の発表と討議(12)・分析結果のまとめ	★実践体験及び調査結果等の最終報告に向けて準備検討する。																																															
14. 個人の発表と討議(13)・分析結果のまとめ	★実践体験及び調査結果等の最終報告に向けて準備検討する。																																															
15. 個人の発表と討議(14)・最終報告																																																
10. 成績評価	実践での分析結果の発表: 50% 最終レポート: 50%																																															

授業概要

1.科目名	特別支援教育実践研究		
2.時間数	30 時間	時期	秋学期 木曜
3.必修・選択区分	必修		
4.授業形態	講義・演習		
5.参考書			
6.担当者	人間行動学研究科 非常勤講師 中尾繁樹		
7.概要	<p>具体的なテーマに沿った実践研究を行うことにより、特別支援教育学の分野での実践・研究に必要となる現場での実践分析力と研究方法の習得をめざす。</p> <p>特別支援教育における現場での課題と心理・教育学的に検討するための具体的方法論を知り、また最新の研究動向を知る中で、現在の特別支援教育の教育課題に対するエビデンスの収集と問題のたて方と研究方法を学ぶ。</p>		
8.学習目標	<p>① 特別支援教育学の基本概念と研究方法論を知る。</p> <p>② 研究課題に沿った、エビデンスと実践での情報収集及び分析を行う。</p> <p>③ 修士論文に向けた研究課題設定を行うことができる。</p>		
9.授業展開 及び 授業内容/ アサイン メント (宿題等)	1. オリエンテーション・授業の進め方	★自身の研究テーマに沿った実践現場の確保と研究目的の整理	
	2. 実践体験と分析(1)・特別支援教育現場での実践報告と検討①	★自身の研究テーマに沿った実践現場の確保と研究目的の整理	
	3. 実践体験と分析(2)・特別支援教育現場での実践報告と検討②	★自身の研究テーマに沿った実践現場の確保と研究目的の整理	
	4. 実践体験と分析(3) ・ソーシャルスキルの指導(1) ①ソーシャルスキル ②ライフスキル ・特別支援教育現場での実践報告と検討③	★自身の研究テーマに沿った実践現場の確保と研究目的の整理	
	5. 実践体験と分析(4) ・ソーシャルスキルの指導(2) ①ソーシャルスキルの指導法 ・特別支援教育現場での実践報告と検討④	★自身の研究テーマに沿った実践現場の確保と研究目的の整理	
	6. 実践体験と分析(5) ・ソーシャルスキルの指導(3) ①感情と表現 ②適応 ③自尊感情 ④社会情緒的発達 ・特別支援教育現場での実践報告と検討⑤	★自身の研究テーマに沿った実践現場での調査実践開始①	
	7. 実践体験と分析(6) ・ソーシャルスキルの指導(4) ①自己理解 ②他者理解 ③セルフアドボカシー ・特別支援教育現場での実践報告と検討⑥	★自身の研究テーマに沿った実践現場での調査実践開始②と中間報告に向けたまとめ	
	8. 実践体験と分析(7)・特別支援教育現場での実践 中間報告	★自身の研究テーマに沿った実践現場での調査実践開始③	
	9. 実践体験と分析(8) ・感覚と運動の指導 ①感覚運動機能 ②目と手の協応 ③不器用さ(発達性協調運動症) ・特別支援教育現場での実践報告と検討⑦	★自身の研究テーマに沿った実践現場での調査結果分析①	
	10. 実践体験と分析(9) ・感覚と運動の指導(2) ①姿勢保持 ②感覚運動機能の指導 ・特別支援教育現場での実践報告と検討⑧	★自身の研究テーマに沿った実践現場での調査結果分析②	
	11. 実践体験と分析(10)・特別支援教育現場での実践報告と検討⑨	★自身の研究テーマに沿った実践現場での調査結果分析③	
	12. 実践体験と分析(11)・特別支援教育現場での実践報告と検討⑩	★自身の研究テーマに沿った実践現場での調査結果分析④	
	13. 個人の発表と討議(12)	・分析結果のまとめ	
	14. 個人の発表と討議(13)	・分析結果のまとめ	
	15. 個人の発表と討議(14)・最終報告		
10. 成績評価	実践での分析結果の発表:20% 中間レポート:30% 最終レポート:50%		

(選択科目) RST-007

授業概要

1.科目名	発達障害教育特論		
2.時間数	30 時間	時期	秋学期 水曜
3.必修・選択区分	選択		
4.授業形態	講義・演習		
5.参考書	必要に応じて、授業で紹介します。		
6.担当者	人間行動学研究科 非常勤講師 花熊暁		
7.概要	発達障害の子どもたちの支援で最も大きな課題となるのが、教科学習の基礎となる読み書き能力の困難への支援と、周囲の人たちとのコミュニケーションの困難への支援です。本授業では、これら2つの課題への支援を行うに際しての、基礎知識・理論を学ぶとともに、子どもたちが示す困難の具体像、実態把握・アセスメントの方法、支援の観点と方法、支援の実際等について、事例等を挙げながら具体的に学びます。		
8.学習目標	① 読み書きの発達や言語・コミュニケーションの発達とその困難の理解に必要な基本用語を説明することができる。 ② 「読む・書く」「聞く・話す」の実態把握・アセスメントの方法を具体的に挙げることができる。 ③ 発達障害の子どもたちに見られる「読む・書く」と「聞く・話す」の困難の原因と困難の具体像を説明することができる。 ④ 子どものつまずきの原因と支援の方法・内容を関連づけて述べることができる。		
9.授業展開 及び 授業内容/ アサイン メント (宿題等)	1. 読み書き能力を習得することの意義 2. 読み書きに関する基礎理論(その1) ①音と文字の対応 ②言語による文字表記体系違い 3. 読み書きの基礎理論(その2) 日本語の文字表記体系の特徴 4. 読み書きの基礎理論(その3) 読み書き能力の発達過程:エマージェントリテラシーの発達 5. 読み書きの基礎理論(その4) 読み書き能力の発達過程:音韻意識、呼称速度、ワーキングメモリー 6. 特異的な読み書きの困難 ①ディスレクシアと LD ②より広範な困難(ADHD、ASD) 7. 読み書きの困難の実態把握・アセスメント 8. 「読む・書く」の指導の実際 9. 事例による検討 10. 言語・コミュニケーションに関する基礎知識と基礎理論 11. コミュニケーションと言葉の発達の道筋 12. 発達障害の子どもたちにみられる言語・コミュニケーションの困難の状態像 13. 「聞く・話す」の領域の実態把握とアセスメント事例による検討(2)－1 14. 言語・コミュニケーション支援の観点と方法 15. 事例による検討とまとめ		
10.成績評価	① 授業内での討論 30% ② 小レポート 30% ③ 最終レポート 40%		

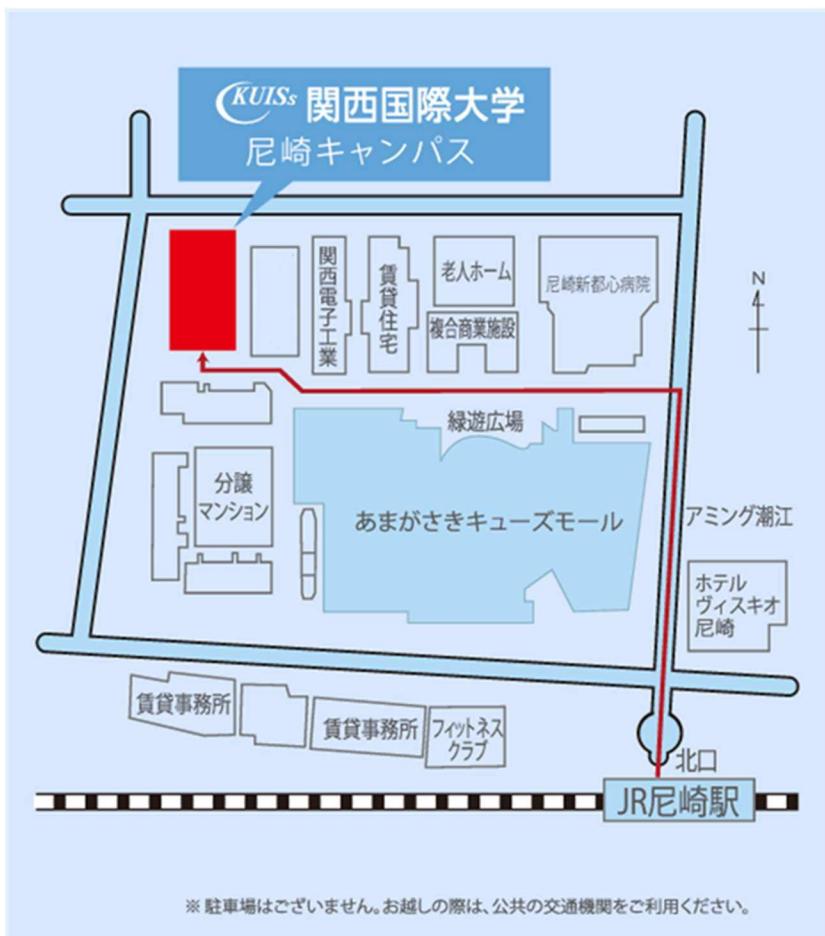
(選択科目) RST-008

授業概要

1.科目名	学級経営学特論		
2.時間数	30 時間	時期	春学期 火曜
3.必修・選択区分	選択		
4.授業形態	講義と演習		
5.参考書			
6.担当者	人間行動学研究科 非常勤講師 中尾繁樹		
7.概要	<p>様々な視点に基づく学級(ホームルーム)経営について多面的に考察することを通して、現場における実践力の向上を図る。</p> <p>○議論と対話、思索を通して、柔軟な思考力と多角的な視座を形成するとともに、リーダーシップの重要な要素であるコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>○学級経営に係る諸課題とその克服のための方策について考究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校は社会的な教育機関であるという特性のため、その社会の変化の影響を少なからず受ける。そしてそこから生じる課題とそれに対応するための柔軟な対応力が必要とされる。現在学校を取り巻く社会は、まさに大変革の時代と呼ばれている。ビッグデータを活用したAIによる新たな社会の構築は、どのような社会構造の変化をもたらすのか、また新型コロナウイルスの影響で世界の人の流れが今は停滞しているように見えるが、グローバル化という大きな流れが一層進展していくだろうと予想される中で、未来の世界を生きる子どもたちに今どのような力をつける必要があるのかなど、学校教育の課題は益々多様化している。学級の中で子どもたちをどう育て、様々な課題をどう解決していくかを学級経営を通して検証する。 		
8.学習目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 学級経営の基本概念と研究方法論を知る。 ② 研究課題に沿った、エビデンスと実践での情報収集及び分析を行う。 ③ 学級におけるアセスメントの構造について、困っている子どもたちの特性から説明することができる。 ④ 生徒指導上の諸問題について、困っている子どもたちの特性から説明することができる。 ⑤ 教科指導と学級経営の課題について、説明することができる。 ⑥ AIやIT技術に関するSTEM(科学・技術・工学・数学)教育の世界と日本の現状について理解しマネジメントすることができる。 		
9.授業展開 及び 授業内容/ アサイン メント (宿題等)	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 学級経営とは何か(文科省方針を踏まえて) 2. 学級におけるアセスメント① 3. 学級におけるアセスメント② 4. 学校園における学級経営の具体的方策① 学校・園における支援体制 I:通常の学級における支援 ①基礎的環境整備 ②合理的配慮 5. 学校園における学級経営の具体的方策② 学校・園における支援体制 I:通常の学級における支援 ①学習指導要領 ②教育課程 ③学級経営 AIやIT技術に関するSTEM(科学・技術・工学・数学)教育の世界と日本の現状について 6. 「いじめ」「不登校」についての理解と対応① ・講義:「いじめ」「不登校」の現状と理解 7. 「いじめ」についての理解と対応② ・講義:「いじめ」の具体的対応 8. 「不登校」についての理解と対応② ・講義:「不登校」の具体的対応 9. 学校・園における支援体制 II:通級による指導 ①通級による指導の制度の変遷 ②自立活動 ③自校通級・他校通級・巡回による指導 10. 学校・園における支援体制 II:通級による指導 ①通常の学級との連携 ②専門機関との連携 AIやIT技術に関するSTEM(科学・技術・工学・数学)教育の世界と日本の現状について 11. 生徒指導上の諸問題の理解と対応① ・講義:生徒指導上の諸問題と子どもたちの発達特性、困り感 12. 生徒指導上の諸問題の理解と対応② ・討議:発達特性に応じた生徒指導とは? 13. 保護者対応 14. 学校・園における支援体制 III:コーディネーターの役割とリソースの活用 ①チーム学校 ②特別支援教育コーディネーター ③校内委員会 15. 学校・園における支援体制 III:コーディネーターの役割とリソースの活用 ①特別支援教育支援員 ②地域リソースの活用 		
10.成績評価	<p>授業内の対話・交流・議論・発表等への参加姿勢 30%</p> <p>課題の発見と解決に向けた幅広い行動力 30%</p> <p>課題に対する読解力・思考力・判断力・表現力等の言語能力 40%</p>		

【開講場所・アクセス】

兵庫県尼崎市潮江 1 丁目 3 番 23 号 (JR尼崎駅より北西へ徒歩 5 分)



※ 駐車場はございません。お越しの際は、公共交通機関をご利用ください。

お問合せ・お申込み

関西国際大学 尼崎キャンパス
履修証明プログラム担当係
〒661-0976 兵庫県尼崎市潮江 1-3-23
TEL: 06-6496-4357(直通)
E-mail: gakuji@kuins.ac.jp
URL: <http://www.kuins.ac.jp/>